

東大島亭のご案内!

第13回東大島亭

林家けい木・立川志の太郎二人

注目の若手が隔月で開催する「東大島亭」。第13回は、1年ぶりの出演となる林家けい木と立川志の太郎による二人会!

若手実力派の落語を趣のある和室でお楽しみください。
(全席椅子席)

日時: 1/16 (土) 開場13:30 開演14:00
料金: 一般前売 1,500円 友の会前売 1,300円 ※当日300円増
会場: 東大島文化センター
2階第1和室 全席自由
6歳以上入場可



チケット予約
こちらでも



林家けい木



立川志の太郎

好評発売中

HIGASHI
OJIMA
CULTURE
CENTER
NEWS



秋号

東大島文化センター ニュース

- 1 てくてく水辺ウォーク参加者募集
- 2 クリスマスワークショップ参加者募集
- 3 ぶらり小名木川
- 4 東大島亭のご案内

index



てくてく水辺ウォーク参加者募集 「水辺の鳥ウォッチング」

川に囲まれた江東区の水辺に親しむてくてく水辺ウォーク。ガイドの解説を聞きながら、身近に見られる鳥たちを観察して歩きましょう。

双眼鏡は無料でお貸出しします。

当日どんな鳥が観察できるか、お楽しみ



日時: 12/20(日)9:00~11:30

場所: (集合・解散) 中川船番所資料館

対象: 15名 (中学生以上)

料金: 600円 (保険代含む)

ガイド: 大原庄史 (NPO法人生態教育センター主任指導員)

NPO法人ネイチャーリーダー江東

申込: 電話・窓口で (先着順) 最少催行人数5名 (締切時)

募集締切: 12/8 (火) 17:00



安心してご受講いただくために



江東区文化コミュニティ財団では、公演実施・講座実施に際し、江東区の方針に基づいて財団ガイドラインを作成し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に最大限努めます。

- ①検温 来館前に検温をお願いします。体調不良等の場合、来館をご遠慮ください。
- ②マスク着用 マスクを着用してご来館ください。
- ③手洗い、アルコール消毒 来場の前後に行っていただきますようご協力ください。
- ④受講生同士の間隔確保 接触を防ぐため座席の間隔を空けています。
- ⑤定期的な換気 空調設備による常時換気と共にドア・窓を定期的に開放して、換気をしています。
- ⑥名簿の扱い 感染発生等の場合、保健所等に提供することがあります。



公益財団法人
江東区文化コミュニティ財団

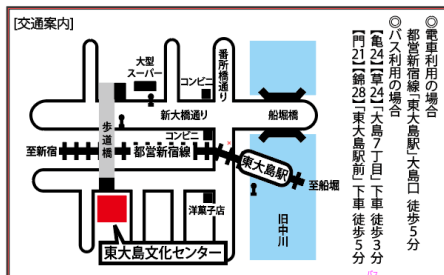
江東区東大島文化センター

TEL. 03-3681-6331

FAX. 03-3636-5825

〒136-0072 江東区大島 8-33-9 (地図参照)

休館日: 第1・3月曜日、ただし国民の休日にあたる場合を除く
ホームページ: <https://www.kcf.or.jp/higashiojima>



[交通案内]

◎電車利用の場合
都営新宿線「東大島駅」徒歩5分
◎バス利用の場合
【亀24】(亀24)「大島7丁目」下車徒歩3分
【門21】(門21)「東大島駅前」下車徒歩5分



ガイドが詳しく解説します!

予告
1月のてくてく水辺ウォークは
冬号でご案内します!

おうちクリスマスを彩る一日体験教室参加者募集

もみの木の香りを楽しむクリスマス壁飾りと、軽くてやわらかな粘土でカメラのブローチを作ります。

①もみの木（生花）の香りを楽しむクリスマス壁飾り

（製作時間 約60分）

日時：12/13（日）10:00、13:00

対象：小学生以上 各回8名

講師：宮城加陽子（オーキットフラワー代表・フラワーデザイナー）ほか

金額：1,500円

②大人キュートなカメラのブローチを

クリスマスフレームに添えて（製作時間 約60分）

日時：12/20（日）10:00、11:15、13:00

対象：高校生以上 各回10名

講師：高橋美貴（DECOクレイクラフトアカデミー上級講師）ほか

金額：1,500円

申込：①・②ともに電話、窓口で（先着順）



①もみの木の香りを楽しむクリスマス壁飾り



②カメラのブローチをクリスマスフレームに添えて



小名木川リバーガイド倶楽部
会員 進藤 宏一

小名木川「かさ上げ護岸」

小名木川水辺の散歩道、砂島橋のたもとに「小名木川かさ上げ護岸の歴史」碑があります。散歩しているとあまり目立たないので、古い汚い護岸があるなぐらいで通り過ぎるかもしれません。しかしこの護岸の歩みが、江東区の歩みと言えるのではないのでしょうか。

江東区の大部分は、江戸時代からの埋め立てで出来上がりました。当然、海面からはさほど高くない街でした。この為、幾度となく高潮や洪水の被害を受けてきました。更に明治時代以降、工業地帯として発展すると多くの工場が地下水を汲み上げて使用しました。また、水溶性天然ガスを採取し使用したため、地盤沈下が進み地盤が海面より低くなりました。このため、街を水害から護るため護岸が作られ、地盤沈下の進行に伴って度々かさ上げが行われました。1972年以降は地下水の採取規制の強化と天然ガス採取禁止などの対策により現在、地盤沈下は収まっているそうです。

かさ上げを繰り返した護岸は大地震が発生した際、護岸崩壊による水害の危険が心配されてきました。

東京都は、大地震の発生時にこの地域を水害から守るため、1971年から北十間樋門および扇橋閘門より東側を流れる河川を荒川などの周辺河川から締め切り、平常水位を低く保つ「水位低下対策」を実施し1993年3月に完成しました。これにより不要になったかさ上げ護岸の上部を切り取り「塩の道」の再生として散歩道が出来上がりました。ただし、この対策により小名木川等の周辺河川は潮の満ち引きはなくなりました。

50年ぐらい前まで江東区は、毎年水害に見舞われていましたが、下水道の整備など治水対策により大規模な水害が起きなくなりました。しかし、近年の気候変動で台風が大型化し集中豪雨が多発するようになりました。昨年の台風19号の避難勧告では、私も57～8年ぶりに小学校に避難をしました。

みなさん、地震だけでなく水害に対する防災対策の再確認を怠りなく。

参考：東京都江東治水事務所
小名木川「かさ上げ護岸」歴史の碑

